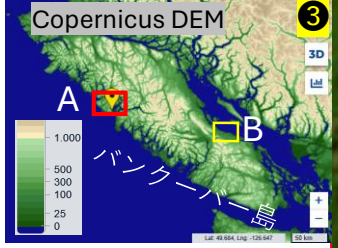
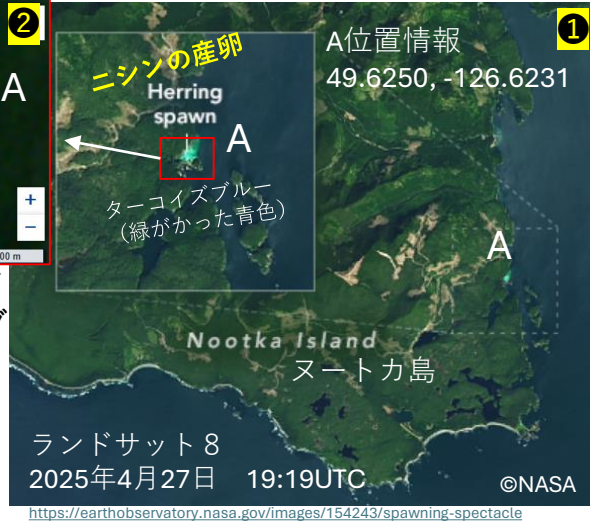
2025年5月12日

YACかわら版 577

群来　kuki

B位置情報
49.3581, -124.4327
C位置情報
55.4896, -133.1673





https://earthobservatory.nasa.gov/images/154243/spawning-spectacle

NASAの2025年5月5日「今日の画像」は、「壮大な産卵」（Spawning Spectacle）です。「カナダのブリティッシュコロンビア州の入り江では、ニシンの産卵により、鮮やかな**ターコイズブルー**（緑がかった青色）の水面が生まれました。」とリードしています。❶A　ランドサット８観測❶の12分後にセンチネル - ２Cも観測しています。❷A。バンクーバー島周辺の沿岸域に、数千匹のニシンが産卵のために集まります。メスは昆布や海草などの表面に卵を産みます。オスは精子液を水中に放出します。水色の変化は数時間から数日続くことがあるそうです。衛星からも観測できるこの光景は、重要な海洋生態系の存在を示しています。

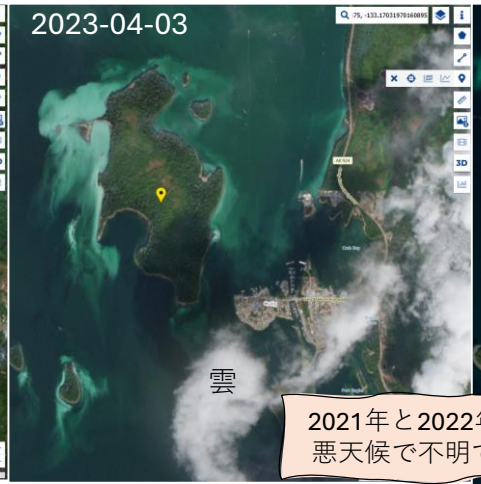
バンクーバー島周辺を探ってみました。手がかりは「X」への投稿画像です。❹バンクーバー島の北側でもニシンの産卵を確認できました。❸B　❺

https://x.com/PSF/status/1768326511080439856　バンクーバー島のクオリカムビーチ周辺に産卵場がありそうです

アメリカのアラスカ州にもニシン産卵場探索を広げました。アンカレッジとバンクーバーの中間、プリンス・オブ・ウェールズ島のクレイグ付近でニシンの産卵が盛んだという地域発信情報をウエブサイトで見つけました。

https://www.kfsk.org/2020/04/10/herring-spawn-setting-new-records-near-craig/　❻

写真には「ニシンの産卵は、この写真の右端にあるクレイグの街で、フィッシュエッグアイランド（Fish Egg Island）周辺の海を明るくします」との説明があります。まさに**魚卵島**です。2020年4月10日(金)クレイグ周辺で30海里の活発な産卵が観察されたとも報じられています。魚卵島周辺のセンチネル２観測データをまとめました。ニシンの**群**が**来**ています。❼



前ページで、カナダ・アメリカでのニシンの産卵を衛星データで確認しました。産卵のために集まった何千匹ものニシンの行動を、衛星データで確認できることにおどろきました。自然の営みと人々との生活との関りに改めて関心が高まります。

関係機関のウエブサイトで「ニシン」を調べます。本号の表題「群来 Kuki」の由来が説明してあります。

小樽市のウエブサイトには「ニシンの群来が来た！」というページがあります

小樽沿岸では、今年もニシンが産卵のため大群で押し寄せ、産卵・放精によって海の色が乳白色になる群来（くき）が確認されています。

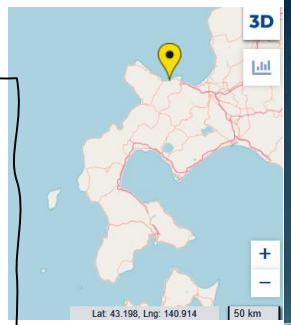
群来は、１０年以上続けて確認されております。漁業者の皆様の稚魚放流などの活動が実ったものだと思います。　　以下略

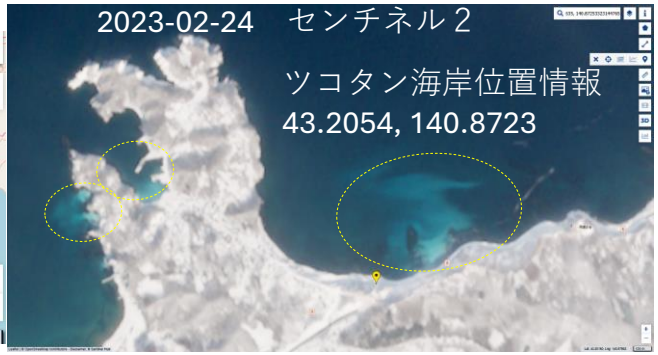
群来が地域に根差しているのですね。北海道の他地域でも郡来は確認できるようです。ニシンの漁場は世界中にあります。各地の群**来**を探ったり、経年変化も調べてみたいですね。

小樽のツコタン海岸周辺での群来を最後に紹介しましょう。

小樽市公式SNSの朝里の群来紹介より

小樽っ子にとって群来は
もうすぐ春がやってくるという知らせ。
今年も美味しい鰊が食べられそうだね





農林水産省のウエブサイトでの紹介

ニシン：イワシ科に属し、寒帯に棲息（せいそく）する海水魚のこと。煮物や昆布巻き、甘く炊いた身をのせた「ニシンそば」がよく食べられています。かつて北海道の日本海沿岸ではニシン漁が盛んで、ソーラン節はニシン漁の祝い唄でした。

名前の由来：一説では、身欠きニシンを作るときに、身を二つに割いて干したことから「二身」と名付けられたのだとか。また、ニシンは、春になると産卵のために大群で沿岸へ押し寄せてきたことから、別名「**春告げ魚**」といいます。ちなみに、北海道の松前ではニシンが米に次ぐ主食だったことから、魚に非ずの意味で「鯡」と書くとも。

カズノコとは：子孫繁栄の縁起物として、正月のおせち料理や結婚式など、お祝いの席には欠かせないカズノコ（数の子）は、ニシンの卵巣です。名前の由来として、ニシンを「カド」ともいったことからカドの子がなまってカズノコになったという説や、一度にたくさんの数の卵を産むため、「数」の子を当てたという説などがあります。（構成等変更）

https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2003/spe2_02.html

北海道–水産林務部森林海洋環境局成長産業課 – ウエブサイトでの紹介

体は細長く、尻びれと背びれは基底（ひれの付け根の前端から後端）の長さがほぼ同じです。

ニシンは産卵場や産卵期、回遊範囲などが異なる多くの系郡に分けられ、北海道周辺では主に北海道・サハリン系郡と石狩湾系が占めます。

産卵期は、北海道・サハリン系郡は３月下旬～６月下旬、石狩湾系は１月下旬～５月上旬で、沿岸の海藻に卵を産みつけます。産卵親魚が多いときは、雄の精液によって産卵場一帯が白濁する「群来（くき）」という現象がみられます。

（以下略　構成等変更）

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/gid/fis005.html